

東海の歴史考古学最前線

— 若手研究者を中心に —

日時

2025年9月27日(土) 13:00～17:00

会場

名古屋大学東山キャンパス 文学部127講義棟
(地下鉄名城線名古屋大学駅1番出口徒歩5分)

参加費

無料 (資料集は別途有料)

主催：考古学研究会東海例会 協賛：古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

東海地域では近年、瓦研究などを中心に若手の学生や研究者の台頭が著しく、今後が大いに期待される多くの研究活動が進行中である。本例会ではそれらの諸研究を一堂に会して紹介し、多くの方々と意見交換をすることで、研究の発展を企図するものである。

13:00～13:10 開会挨拶・趣旨説明

13:10～13:40

大村 陸「3D計測による大山廃寺跡塔心礎と出土瓦の製作技術の検討」

13:40～14:10

伊藤佑真「坂祝町輪形古窯に関する新知見」

14:10～14:40

兼松泰弘「赤色立体地図を活用した山茶碗窯跡の発見 —犬山市八曾地区を事例に—」

15:00～15:30

寺井崇浩「中世瓦研究の新視点—中世猿投窯製品としての瓦—」

15:30～16:00

鈴木悠介「織豊期瓦の製作技法的研究」

16:00～16:30

小出一磨「胎土・焼成からみた織豊期瓦の分析 —瓦製作工程とその痕跡を踏まえた考察—」

16:30～16:50

東海地域における若手考古学者の活動紹介

16:50～17:00

閉会挨拶

大山廃寺塔心礎3Dモデル



八事裏山窯出土瓦 (荒木集成館)



清洲城下町遺跡出土軒平瓦 (上)・天正十四年銘丸瓦 (下)
(愛知県埋蔵文化財調査センター)

